

【目的】多様化する衣生活に対応できる被服整理の内容を知る手がかりとして、日常学生が洗濯や乾燥などに際して、被服のどのような扱い方に注意し、また実際に行っているかアンケート調査を行い、生活習慣の異なる日本とCalifornia州の学生の比較において、検討した。

【調査方法】対象者は、福岡県およびCalifornia州（合衆国、以下Cal.）在住の高校生および大学生とし、有効回収数は521名（うちCal.は154名）であった。

調査期間は、1987年10-12月、方法は自記式配表調査法で行った。

調査内容は、洗濯回数、柔軟仕上げ剤使用の有無、洗濯場所・方法、乾燥場所・方法、洗濯・乾燥する際の注意事項等46項目とした。

【結果】今回調査した高校生はほとんど家族と同居であり、大学生は、日本では約6割、Cal.ではほとんどの者が家族と別に生活している。

日常の被服の洗濯は、日本の大学生は、週2回以上家で洗濯機を使っているのに対し、Cal.では週に1回以下の者が多く、彼らの3割以上がコインランドリーを使用している。

ジャケット・コート類の洗濯は、日本、Cal.ともに、半数以上の大学生が1シーズンに1回商業洗濯に出すのみである。

Cal.の7割以上が衣類乾燥機を使用しており、戸外で乾燥させる者はほとんどいない。

自分でアイロンがけをしない者は、Cal.では男女とも2割程度であるが、日本では男子の6割に達している。